



GUNBOH

# 群 萌

第173号 2010年1月14日

発行所 全国化学労働組合総連合

〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-10

本郷TKビル1F

TEL 03 (3868) 9663

FAX 03 (3868) 9664

発行責任者 秋田 孝弘

編集者 総合企画委員会 情宣グループ

gs03@kagaku-s.jtuc-rengo.jp

## 変化を冷静に判断し的確な取り組みを！

全国化学労働組合総連合 会長 秋田 孝弘

全国の化学総連に集う単組組合員の皆さま、明けましておめでとう御座います。

新しき年の初めをご家族の皆さまとお迎えの事とお慶び申し上げます。また、安全・安定運転に努め緊張感を持って職場で新年をお迎えの組合員の皆さま大変ご苦労様です。

そして、加盟組合の皆さまには常日頃より化学総連への深いご理解と暖かいご協力・ご支援を賜り、改めて御礼申し上げます。

新年を迎えるにあたり、組織を代表しご挨拶申し上げます。

昨年、流行語にもなった「政権交代」を果たした民主党は、国内に於いては税収入が大幅減となる中で平成22年度予算編成や政府税制調査会に於ける見直し、景気回復に向けた取り組み、緊急雇用対策、外交に於いては

CO<sub>2</sub>削減目標値25%に関わるCOP15での対応、普天間基地移設問題等々、大変大きな課題を抱えながらの船出と航海となりました。その中で特筆すべきは、11月中旬からの政府税制調査会でのヒアリングに於ける租税特別措置の見直しに関して、原料ナフサへの課税と現行ナフサ免税措置の見直しなど、我々化学産業に働く者にとって、産業界全体で3兆6千億円という途方もない負担を強い、石油化学企業の存続を始めとする自動車産業や電機産業への影響や我々の雇用不安にも繋がりがねない重大な問題が浮上し、深刻な先行き不安が発生したことです。このことから、私たち化学総連事務局として、業界団体である日化協や石化協と協働し、またJEC連合・JEC総研とも緊密な連携を取り合いながら、お互いの組織内で関係する民主党議員との懇談・要請行動を通じて、ナフサ免税措置の恒久化と原料ナフサ非課税を本則化するよう強く求めたところです。こうした取り組みにより、平成22年度の予算にはナフサ免税の継続と原料ナフサは非課税となったものの、来年以降税収の落ち込みと共に財務省の「課税対象の見直しに聖域はない」という方針の下で改めて検討される懸念も残しています。

この様な事から、政権与党議員とのパイプの必要性について重く受け止め、単組各支部に於ける従来からの取り組みは継続的に取り組んで頂く事を前提に、本部事務局段階における取り組みとして、単組各支部に於ける支援議員とも懇意な関係を保つと共にJEC連合フォーラム議員との定期的懇談等の場へ参加するなど、適切な対応を図っていかねばなりません。

年の初めに、従来とは違った取り組みの一端を紹介しましたが、今後の課題として十分な検討と周知を進めていきましょう。

さて、もう一方の関心事である2010年度春季生活闘争の動きです。連合は、昨年12月の中央委員会に於いて2010春季生活闘争方針を全会一致で確認しました。主な内容は、ベースアップ要求基準は設けず、①非組合員含めすべての労働者の処遇改善待遇改善に取り組む、②賃金水準維持の取り組み、③雇用安定創出の取り組み、④共闘連絡会議体制強化、⑤政策・制度との連携強化、以上5点を闘いの柱としています。そして、今回初めての試みとして①と⑤を取り組みの「車の両輪」と位置付けています。いずれ、幹部研修会に於いて化学総連の考え方と共に皆さんへお知らせしていきます。

新しい年を迎えるにあたり、皆さんにとって輝かしい福来たる年になるよう祈念し、年頭の挨拶とします。





# 化学総連の新たな仲間！



ポリプラスチックス労働組合  
執行委員長 飯塚 貴広

化学総連の皆様、はじめましてポリプラスチックス労働組合で執行委員長をしております飯塚と申します。

この度、弊労組はダイセル化学労働組合様を通じて関連企業労組連携という形により化学総連に参加させて頂くことになりましたので一言ご挨拶をさせていただきます。

弊労組は東京品川に本社を置くエンジニアリングプラスチック(POM、PBT、PPS、LCP、COC各樹脂)の製造販売を専業としている、ポリプラスチックス株式会社の企業内組合であります。

組合本部を生産と研究の拠点である静岡県富士市に置き、その他に支部組織として東京支部と大阪・名古屋支部の2つを持ち、現時点での組合員数は480人程度です。

また、富士にある組合本部の下に教宣部・コミュニケーション企画部・福祉厚生部・調査部の4つの専門部を置き、それぞれ役割に応じた組合行事を担っています。

弊労組は1969年設立以来、一貫して上部団体等に所属することなくやってきましたので他労組様との交流経験が圧倒的に少なく、良くも悪くも独自路線でやってまいりました。

その意味でも今回、ダイセル化学労働組合様を通じて化学総連の活動の一端に参加させて頂き他労組様と交流できる機会を得た事は弊労組にとって非常にありがたいことでもあります。

改めてこのようなきっかけを与えて下さったダイセル化学労働組合様及び我々を暖かく受け入れて頂いた化学総連の皆様に対しては感謝の念で一杯であります。

上記のように、なにぶん世間知らずな面のある組合で、これからもいろいろご迷惑をお掛けしてしまうことがあるかと思いますが、皆様のご指導を仰ぎ日々研鑽を重ねていく所存でありますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



左から佐々木執行委員、小林執行委員、吉崎副委員長、別所書記長  
(伴執行委員、鈴木執行委員は不在)



## お詫びと訂正

群萌第172号掲載の「退任役員並びに新年度役員紹介」P7において、氏名に一部誤りがございました。心よりお詫び申し上げますとともに、以下のとおり訂正させていただきます。

(誤) 副会長 本間 克己 → (正) 副会長 本間 克巳